

最初期のカンチレバー桁橋

我が国最初期の「鉄筋コンクリート製カンチレバー桁橋」の一つで、1932（昭和7）年に架設。県内では1931（昭和6）年に完成した大正橋（千曲市、現存せず）に次いで2番目に古い。完成当初は鉄筋コンクリート桁橋としては最大の支間長26mを誇った。阿知川の洪水に耐える永久橋として、1882（明治15）年架設のつり橋や大正年代の架け替えを経て建設された。信濃の橋百選に選定されている。



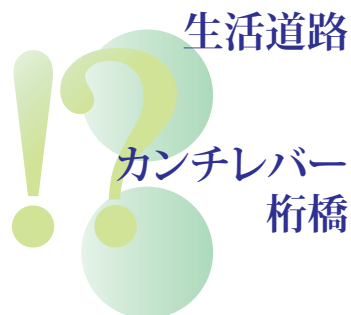
村民の大切な生活道路



味わいのある親柱だが、傷みが激しい状態

information

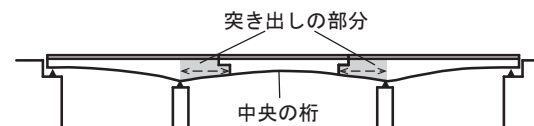
- アクセス
飯田山本ICから5km
車→10分
- 所在地
阿智村駒場



橋は、役場などが集まる阿智村中心部の駒場地区内にあり、阿智川が蛇行するところに掛かる。阿智中学校の生徒たちも使用する生活道路（村道）となっている。

連続する橋桁のうち、両側の桁を突き出して、その先端に中央の桁を渡す構造の橋。

中央の桁の長さを大きくとることが出来る。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)